

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館 林

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		限られたスペースの中でパーティションを用いて空間を区切り、それぞれの空間で過ごしやすくしています。	
	2 職員の配置数は適切である	○		常時4~7名の職員(保育士、児童指導員等)を配置しています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ホワイトボードを使い、本人に視覚的にも伝えられるようにしています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		常に清潔を心掛け、環境を整える努力をしています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に職員会議を開き、職員の意見交換や事例検討等を行っています。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価に対して真摯に受け止め、対応・改善に努めます。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者委員を通し、意見交換を行っています。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		県や市で行われている様々な研修に積極的に参加し、内部研修を行い共通理解を図っています。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個別に面談を行い、職員全員でニーズの把握、現在の状況、今後の課題等を検討し支援計画書を作成しています。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ご家族との相談の上、支援内容を決定しています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		定期的に会議を開き、立案を行っています。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動により変化をもたせたり、難易度を変える等工夫をしています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個々にあったレベルでできることが増えるような計画の作成を心がけています。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		昼礼を行い、送迎の確認や活動・支援内容を確認しています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援記録を書くとともに支援の振り返りを話し合っています。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別支援記録に記入し、職員間で共通理解を図っています。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング後、職員間で話し合いをもち、計画の見直しを必要に応じて行っています。		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館林

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	支援部会の会議を通して、情報共有と相互理解を行っています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	対象児童なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	対象児童なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	必要に応じて、児童発達支援事業所との連携は行っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	対象児童なし	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	児童館等に遊びに行った際に交流出来る機会があります。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	毎回参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時、施設での様子をお伝えしています。その際、おうちでの様子や対応なども伺っています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		今後、ペアレントトレーニングの知識の向上を図り、実践できるようにしていきたいと思います。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の際お話をしています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時等の時間を利用して情報を共有しながら、助言及び支援を行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今後、父母会等の開催を検討していきたいと思います。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情対応窓口と責任者を設置するとともに、保護者様に状況の説明等を行い速やかに解決出来るようにしています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月1回、縁だよりを発行しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館 林

	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	お子様には、1日の流れをホワイトボードを用いてわかりやすく掲示し、見通しをもてる支援を行っています。また、保護者様に対しては連絡帳や送迎時に情報伝達をしています。		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今後、地域住民の方々との交流が図れるよう検討していきたいと思ます	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	契約の際、お知らせしています。また、各家庭に配布し周知しています。		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	契約の際、お知らせしています。また、各家庭に配布し周知しています。		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	見学時に見学シートに記入していただき、事前に状況を確認させていただいております。		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	対象児童なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	会議の際、ヒヤリハット報告書について改善点を話し合っています。		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	県や市で行われている様々な研修に参加し、内部研修を行い共通理解を図っています。		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	ベビーカーや車椅子等を使用する場合でも保護者様に身体拘束の了承を得るとともに、計画にも記載しています。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館 林

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		限られたスペースの中でパーティションを用いて空間を区切り、それぞれの空間で過ごしやすくしています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		常時4~7名の職員(保育士、児童指導員等)を配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ホワイトボードを使い、本人に視覚的にも伝えられるようにしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		常に清潔を心掛け、環境を整える努力をしています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に職員会議を開き、職員の意見交換や事例検討等を行っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価に対して真摯に受け止め、対応・改善に努めます。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者委員を通し、意見交換を行っています。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		県や市で行われている様々な研修に積極的に参加し、内部研修を行い共通理解を図っています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個別に面談を行い、職員全員でニーズの把握、現在の状況、今後の課題等を検討し支援計画書を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ご家族との相談の上、支援内容を決定しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		定期的に会議を開き、立案を行っています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動により変化をもたせたり、難易度を変える等工夫をしています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	○		個々にあったレベルでできることが増えるような計画の作成を心がけています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		昼礼を行い、送迎の確認や活動・支援内容を確認しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援記録を書くとともに支援の振り返りを話し合っています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別支援記録に記入し、職員間で共通理解を図っています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング後、職員間で話し合いをもち、計画の見直しを必要に応じて行っています。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館林

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	支援部会の会議を通して、情報共有と相互理解を行っています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	対象児童なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	対象児童なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	必要に応じて、児童発達支援事業所との連携は行っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	対象児童なし	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	児童館等に遊びに行った際に交流出来る機会があります。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	毎回参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時、施設での様子をお伝えしています。その際、おうちでの様子や対応なども伺っています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		今後、ペアレントトレーニングの知識の向上を図り、実践できるようにしていきたいと思います。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の際お話をしています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時等の時間を利用して情報を共有しながら、助言及び支援を行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今後、父母会等の開催を検討していきたいと思います。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情対応窓口と責任者を設置するとともに、保護者様に状況の説明等を行い速やかに解決出来るようにしています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月1回、縁だよりを発行しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館林

	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	お子様には、1日の流れをホワイトボードを用いてわかりやすく掲示し、見通しをもてる支援を行っています。また、保護者様に対しては連絡帳や送迎時に情報伝達をしています。		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今後、地域住民の方々との交流が図れるよう検討していきたいと思ます	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	契約の際、お知らせしています。また、各家庭に配布し周知しています。		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	契約の際、お知らせしています。また、各家庭に配布し周知しています。		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	見学時に見学シートに記入していただき、事前に状況を確認させていただいております。		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	対象児童なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	会議の際、ヒヤリハット報告書について改善点を話し合っています。		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	県や市で行われている様々な研修に参加し、内部研修を行い共通理解を図っています。		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	ベビーカーや車椅子等を使用する場合でも保護者様に身体拘束の了承を得るとともに、計画にも記載しています。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館 林

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		限られたスペースの中でパーティションを用いて空間を区切り、それぞれの空間で過ごしやすくしています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		常時4~7名の職員(保育士、児童指導員等)を配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ホワイトボードを使い、本人に視覚的にも伝えられるようにしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		常に清潔を心掛け、環境を整える努力をしています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に職員会議を開き、職員の意見交換や事例検討等を行っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価に対して真摯に受け止め、対応・改善に努めます。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者委員を通し、意見交換を行っています。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		県や市で行われている様々な研修に積極的に参加し、内部研修を行い共通理解を図っています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個別に面談を行い、職員全員でニーズの把握、現在の状況、今後の課題等を検討し支援計画書を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ご家族との相談の上、支援内容を決定しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		定期的に会議を開き、立案を行っています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動により変化をもたせたり、難易度を変える等工夫をしています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個々にあったレベルでできることが増えるような計画の作成を心がけています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		昼礼を行い、送迎の確認や活動・支援内容を確認しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援記録を書くとともに支援の振り返りを話し合っています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別支援記録に記入し、職員間で共通理解を図っています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング後、職員間で話し合いをもち、計画の見直しを必要に応じて行っています。	

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館林

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	支援部会の会議を通して、情報共有と相互理解を行っています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	対象児童なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	対象児童なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	必要に応じて、児童発達支援事業所との連携は行っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	対象児童なし	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	児童館等に遊びに行った際に交流出来る機会があります。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	毎回参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時、施設での様子をお伝えしています。その際、おうちでの様子や対応なども伺っています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		今後、ペアレントトレーニングの知識の向上を図り、実践できるようにしていきたいと思います。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の際お話をしています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時等の時間を利用して情報を共有しながら、助言及び支援を行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今後、父母会等の開催を検討していきたいと思います。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情対応窓口と責任者を設置するとともに、保護者様に状況の説明等を行い速やかに解決出来るようにしています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月1回、縁だよりを発行しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館林

	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	お子様には、1日の流れをホワイトボードを用いてわかりやすく掲示し、見通しをもてる支援を行っています。また、保護者様に対しては連絡帳や送迎時に情報伝達をしています。		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今後、地域住民の方々との交流が図れるよう検討していきたいと思ます	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	契約の際、お知らせしています。また、各家庭に配布し周知しています。		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	契約の際、お知らせしています。また、各家庭に配布し周知しています。		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	見学時に見学シートに記入していただき、事前に状況を確認させていただいております。		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	対象児童なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	会議の際、ヒヤリハット報告書について改善点を話し合っています。		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	県や市で行われている様々な研修に参加し、内部研修を行い共通理解を図っています。		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	ベビーカーや車椅子等を使用する場合でも保護者様に身体拘束の了承を得るとともに、計画にも記載しています。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館 林

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		限られたスペースの中でパーティションを用いて空間を区切り、それぞれの空間で過ごしやすくしています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		常時4~7名の職員(保育士、児童指導員等)を配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		ホワイトボードを使い、本人に視覚的にも伝えられるようにしています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		常に清潔を心掛け、環境を整える努力をしています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に職員会議を開き、職員の意見交換や事例検討等を行っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価に対して真摯に受け止め、対応・改善に努めます。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		第三者委員を通し、意見交換を行っています。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		県や市で行われている様々な研修に積極的に参加し、内部研修を行い共通理解を図っています。	
適切な 支援の 提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個別に面談を行い、職員全員でニーズの把握、現在の状況、今後の課題等を検討し支援計画書を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ご家族との相談の上、支援内容を決定しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		定期的に会議を開き、立案を行っています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		活動により変化をもたせたり、難易度を変える等工夫をしています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個々にあったレベルでできることが増えるような計画の作成を心がけています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		昼礼を行い、送迎の確認や活動・支援内容を確認しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援記録を書くとともに支援の振り返りを話し合っています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別支援記録に記入し、職員間で共通理解を図っています。	
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		モニタリング後、職員間で話し合いをもち、計画の見直しを必要に応じて行っています。		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館 林

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	支援部会の会議を通して、情報共有と相互理解を行っています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	対象児童なし	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	対象児童なし	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	必要に応じて、児童発達支援事業所との連携は行っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	対象児童なし	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	児童館等に遊びに行った際に交流出来る機会があります。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	毎回参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時、施設での様子をお伝えしています。その際、おうちでの様子や対応なども伺っています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		今後、ペアレントトレーニングの知識の向上を図り、実践できるようにしていきたいと思います。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約の際お話をしています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	送迎時等の時間を利用して情報を共有しながら、助言及び支援を行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今後、父母会等の開催を検討していきたいと思います。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情対応窓口と責任者を設置するとともに、保護者様に状況の説明等を行い速やかに解決出来るようにしています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月1回、縁だよりを発行しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 9 日

事業所名 縁 館 林

	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	お子様には、1日の流れをホワイトボードを用いてわかりやすく掲示し、見通しをもてる支援を行っています。また、保護者様に対しては連絡帳や送迎時に情報伝達をしています。		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今後、地域住民の方々との交流が図れるよう検討していきたいと思ます	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	契約の際、お知らせしています。また、各家庭に配布し周知しています。		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	契約の際、お知らせしています。また、各家庭に配布し周知しています。		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	見学時に見学シートに記入していただき、事前に状況を確認させていただいております。		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	対象児童なし	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	会議の際、ヒヤリハット報告書について改善点を話し合っています。		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	県や市で行われている様々な研修に参加し、内部研修を行い共通理解を図っています。		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	ベビーカーや車椅子等を使用する場合でも保護者様に身体拘束の了承を得るとともに、計画にも記載しています。		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。